

# 滋賀県立高等学校再編計画に対する 本市の取り組みについて

滋賀県教育委員会は昨年7月、滋賀県立高等学校再編基本計画と実施計画のそれぞれの原案を発表しました。そのなかで、信楽高校は、「甲南高校の分校とし、併せてセラミック科およびデザイン科を統合する」とされました。

市では、計画が検討されている段階から、特色ある学科を有する伝統ある同校を、地域の高等教育機関として、その地位を確かなものにするよう要望を行ってきただけに、その原案が発表されたのちも、引き続き現状のまま存続させるよう県に働きかけています。

信楽高校は現在、1学年に普通科、デザイン科、セラミック科が各1クラスの3クラス編成で、定員120人という県内では比較的小規模な県立高校です。しかし、通学距離や通学費用負担などの面で制約を受けやすい地域の高校であり、さらに、当市の伝統産業である信楽焼に深く密着した全国でも数少ない特色ある学科を有した高校でもあります。

市では、市内の県立高校は単に生徒の学びだけでなく、地域に溶け込んだ環境の中で、独自の教育風土が育てられるべきものであると考えています。したがって、生徒の学習意欲に応える高校教育と、焼き物文化の理解を深め、次代へ継承できる人材を育てていくためにも、現状の信楽高校のままで存続させることを趣旨とした要望を県に続けています。

市議会でも、昨年9月定例会において、「現行どおり、滋賀県立信楽高校として、セラミック、デザイン等美術に特化した学校として存続すること」の内容の意見書が採択されています。

また、地元地域でもこの問題への関心は高く、6月17日、関係者によって主催された決起集会に約200名が参加され、中嶋市長も出席し、存続にむけた固い決意を述べ



▲6月17日に開催された総決起集会の様子

ました。集会では、分校化やセラミック科とデザイン科の統合などに反対の声が相次ぎ、信楽高校を存続させていくことが確認されました。

市では、市議会や地元の皆様の声を大切にしながら、引き続き独立校としての存続を県に強く求めることとしていますが、今まで以上に優秀な作家や技術者を育てあげる甲賀市の誇りである信楽高校として存続させていくためにも、甲賀市全体の問題として市民皆様のご理解をお願いします。

# 初の大規模一般公開

「水口藩加藤家文書」藩政・藩主家・水口の歴史を映す古文書群

平成15年に初めて存在が明らかとなった「水口藩加藤家文書」。市の調査を経て今年3月に滋賀県の有形文化財に指定されました。

## 水口の歴史を知る上で 貴重な資料の発見

江戸時代、東海道の宿場町として栄えていた水口を治めていたのが、賤ヶ岳の七本槍の一人、加藤嘉明を祖とする大名加藤家です。天和2(1682)年、加藤家三代明友が二万石で入部して初代水口藩主となり、二時期を除いて加藤家当主が水口を治めました。

しかし、その実態は、資料の不足もあり不明な点が多く残されていました。

そのような中、平成15年に水口町松栄にあった加藤家の「お蔵」に大量の古文書が残されていることが分かり、市が4年をかけて詳細な調査をした結果、大名加藤家や水口藩を知る上で大変貴重な資料であることが分かりました。

また、近世の大名家を研究する上で貴重なものとして今年3月には、滋賀県の有形文化財に指定されました。

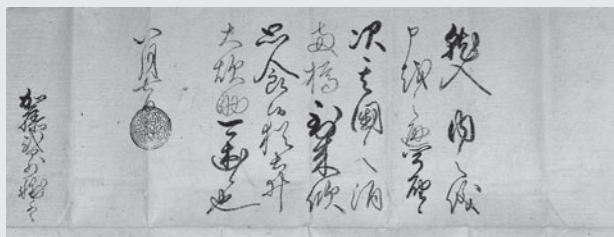
## 1万4千点にも及ぶ 膨大な古文書群

「水口藩加藤家文書」は、桃山時代から近

代に至るまでの約1万4千点に及ぶ古文書群です。

その中には、豊臣秀吉の朱印状や徳川家康をはじめとした徳川歴代将軍からの御内書、江戸幕府老中奉書など様々な史料が含まれ、水口藩と幕府の関係や水口の歴史などについて知ることができます。

◎二代將軍徳川秀忠から加藤家二代明成へ送られた礼状【前期】



〔訳〕

「徳川和子の入内のことについて、そちらより申し送ってきたことは確かに聞き届けました。次に、そちらの回(※1)の酒二樽が届いたことは喜ばしい限りである。なお、詳しくは土井大炊助(※2)が述べらるであらう。」

八月七日(徳川秀忠黒印) 加藤式部少輔(※3)のへ

※1 元和6(1620)年当時、加藤家の所領があった伊予国のことか。  
※2 江戸幕府老中の土井利勝のこと。  
※3 加藤嘉明の嫡子、明成(あきなり)のこと。

## 企画展と講演会を開催

大名加藤家歴代当主が行って来た徳川将軍家との儀礼、大名加藤家とその家臣団、大名の役向(仕事)や藩政関係の資料を展示することにより、水口藩主を勤めた大名加藤家の実態に迫ります。今まで加藤家を扱った展示がされることはなく、本格的な展覧会は今回が初となります。

御内書とは、将軍から出された私的な書状の形式をとる公文書のことです。「水口藩加藤家文書」には、実に644通もの御内書が伝えられており、徳川将軍家と大名加藤家のつながりを垣間見ることができます。

この御内書は、元和6(1620)年に徳川秀忠の娘和子が後水尾天皇のもとへ入内(天皇との婚姻)する折に、加藤明成が祝儀として酒を献上したことに對するお礼状です。

和子の入内に伴い、水口に将軍家専用の宿泊施設として御茶屋御殿(現在の甲賀病院周辺)が建てられました。寛永10(1633)年には現在の水口城の原型となる御殿が建てられますが、和子の入内が建造のきっかけであり、水口の歴史を語る上でも欠かせない出来事だと言えます。

## ●夏季企画展

「滋賀県有形文化財指定記念  
水口藩加藤家文書の世界」

### ●期間

【前期】7月21日(土)～

8月15日(水)

【後期】8月18日(土)～

9月17日(月)

○開館時間/10時～17時

○会場/水口歴史民俗資料館

○入館料/無料

※家庭での電力消費を削減するため、会期中は入館料を無料とします。

## ●講演会

「水口藩加藤家の大坂加番役」

○日時/9月16日(日)

13時30分～15時

○会場/水口図書館2階資料室

○講師/岩城卓二氏(京都大学  
人文科学研究所准教授)

○受講料/300円

## 問い合わせ

水口歴史民俗資料館

☎62・7141  
☎63・4737



平成24年7月15日